

The Hop Step Times

August 2022

100-yen Shop New Products (百円ショップの新商品)

社内企画を模した形で、4チームが百円ショップの新商品を企画発表したが、4チーム中3チームが不採用の結果に終わった。

6月29日(水)6月のグループプレゼンが行われた。背景として、今回の本プログラムのテーマは、ほっぷ利用者が自ら考案したものであり、スタッフから「満場一致のテーマ考案を」と託され、紆余曲折を経て決まったのが、この百円ショップの新商品というテーマであった。

本プログラムでは、今までにない商品企画力が求められた。企画された商品は、「オーダーカード」「ピカちゃん」「マスクスタンド」「はがれるくん」の4点である。オーダーカードとは、カードの提示のみで商品が注文できる商品。傘の先端に取り付ける点滅ライトがピカちゃん。ボールペン状の携帯できるマスクスタンド。はがれるくんは、汚れてほしくない部分に樹脂製の液体を散布する時短掃除スプレー。計4点である。ちなみに、はがれるくんのネーミングは、散布した樹脂が膜へと変化し、その膜を「はがす」と汚れが取れることと、某芸人を掛け合わせたことからきている。

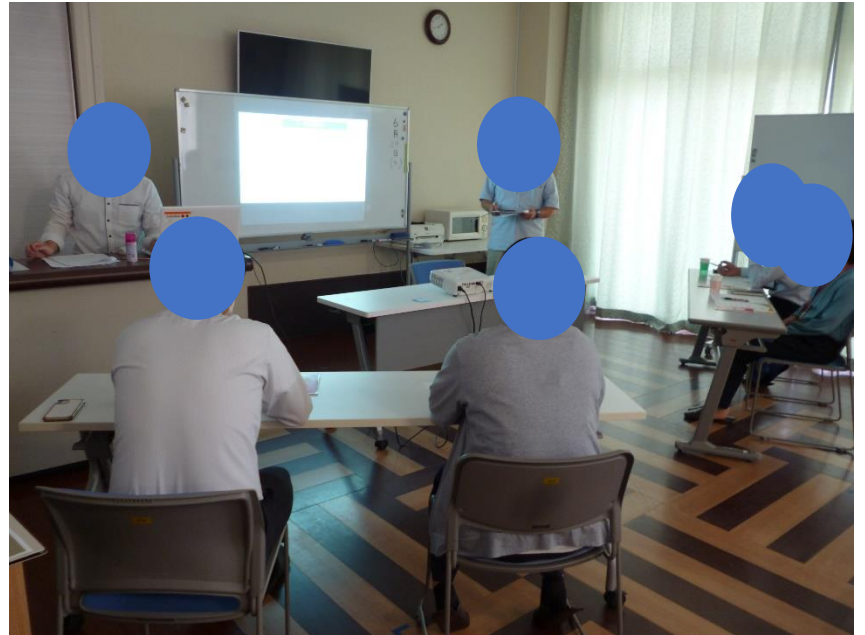
結果から言えば、採用は「はがれるくん」だけ。採用理由は、ターゲットとニーズの絞り込みの良さ、時短掃除グッズの結びつき等が挙げられた。

一方、他の商品はと言うと、ピカちゃんの不採用理由は、質疑応答が曖昧であったこと、百円商品に求める価値観が評価者と企画者でズレていた点である。マスクスタンドは、百円ショップに並べる品ではなく、店側が用意する商品ではないかという点。オーダーカードに至っては、そもそも要らないという理由であった。メンバーからの感想は以下の通り。

はがれるくん：「アイデア出しを懸念していたが、自分の想像以上にアイデアが出て、またそのアイデアを絞るのも面白かった。リーダーを決めていなくてもチームとしてまとまることを知れた。」

ピカちゃん：「自分の取扱説明書をみんなで読んだことで、適材適所な役割を決められて円滑に進んだ。」

マスクスタンド：「マイナス評価部分は質疑応答で準備していた事なので、発表していればよかった。」



オーダーカード：「(この世に存在し)無いものをプレゼンすることが心配だったが、軽いものでも発表まではいけるんだと思った。」

とから何か得てくれれば。」「紆余曲折の中でモヤモヤが発生することが面白味。難しいからこそそのテーマを選んだことが良い。」

今回初めて自分達で考案したテーマを行うことになったメンバーたち。スタッフからは、「自分達でテーマを決めて、自分達で進捗を進めたこ

スタッフの言う通り、この経験から何かを得ようとするメンバーであった。

The Message from Graduate (卒業生メッセージ)

5月にほっぷを卒業したA氏は、復職後再度休職となり、2回の通所を経験したメンバーである。本記事は卒業直前におこなったA氏へのアンケートから一部抜粋し以下に紹介する。

Q1.あなたにとって良かったプログラムを教えてください。

A1.「グループプレゼン」。グループで1つの事を成し遂げる過程で、人間関係に気を配る必要がある。これはまさに職場に近い感覚で、自分の考え方のクセを認識できるプログラムだと思う。

また、「グループディスカッション」は、初心者でも比較的参加しやすく、発信力を鍛え、グループで出した考えを集約するスキルの向上に役立ったという。

Q2.ほっぷ通所前と現在で、変わったと思う自分の行動や考え方、気づきなどがあれば教えてください。

A2.自分の内面の奥深くは変わっていないという感覚はあまりない。一方で、ほっぷでいろんな人たちと交流することが出来て、それが結果的に自分自身を見つめ直す機会となった。また、そのような経験・機会を数多く得たことで、将来の心配よりも今現在を一生懸命生きようと思えたことも、自分にとっては新たな気づき、変化だと思う。

Q3.休職前の自分に一言声をかけるなら、どんな言葉をかけますか。

A3.背伸びをするな。仕事で失敗しても上司や部下の評価が下がっても命を取られるわけでも、生活できなくなるわけでもない。

気さくで、しゃべり上手なA氏は、グループでの話し合いなどでも中心人物として周囲から意見を引き出し、まとめていく光景がよく見られた。復帰後の職場でも颯爽と職務を行うA氏の姿を目に浮かべつつ、彼からメンバーに向けた言葉で締めくくる。

「人生のうちでここまで自分自身に向き合う期間は無いと思うので、今後の人生に向けてより良い選択をするために悩んでみたらいいのかなと思います。そして、たとえ答えが見つからなくても、選択肢を見つけれられるぐらいの感覚で良いのではと考えます。」



ほっぷキャラクター

Hop's Character (ほっぷキャラクター)

「ウサギをほっぷのキャラクターにしたい。」そんなスタッフの要望により、絵心あるメンバーが描いたほっぷキャラクターが出来上がった。

ウサギのキャラクターとして、走っている姿や寝そべて休息している姿が描かれている。これは、ほっぷのプログラム活動の中で、「活動と休息のバランス」を意識して活動しましょうという合言葉があることと重なっている。また、ウサギとカメが仲良く歩く姿も描かれている。これは、ほっぷに通所するメンバーにはいろんな人がおり、現在、いろんな人が一緒に学び歩んでいる姿を想像させる。

描いたメンバーにインタビューしたところ、LINEスタンプを参考にインパクトのある可愛いキャラクターにしたとのことだ。このウサギのキャラクターの名前は?と聞くと、「ほっぴー」としたいとのことだが、まだ、ほっぷ内ではキャラクター名は決定していないようだ。早く、ほっぷ公式キャラクターとなることを願う。

今後、ウサギのように危険(外的な刺激)に遭遇したとしても、『びよん』と対処する術を身につけ、復職や再就職に向けて歩いていきたい。

Hop's Library (ほっぷ図書紹介)

今回はほっぷ図書の中から『「繊細さん」の本』を紹介する。

「繊細さん」とは「HSP」の事を指すが、わかりやすく言うと、先天的に「とても敏感な人」の事である。HSP人口は実に5人に1人と言われている。

この本の一番のポイントであり目指す所であるテーマは、「繊細さん」が「繊細さん」のままで、幸せを噛み締めながらのびやかに生きることである。自身もHSPであり、HSP専門カウンセラーである筆者が、繊細さんが輝ける方法を紹介する内容となっている。

他の人より気づき過ぎて疲れる「繊細さん」。しかし「繊細さん」

が「非繊細さん」になる事は出来ない。なぜなら、見えるものを見えないことには出来ず、聞こえるものを聞こえないことには出来ないように、気付いてしまうことを気付かないようにすることは出来ないからである。

ではどうしたらいいのか。本書の導く答えは、「繊細さん」の鋭い感性に対し、鈍くするのではなく、自分の本音をキャッチし、ありのままの自分を大事にする事。ありのままの自分で生きることと、「繊細さん」は元気になれる。というものだ。

あたたかに包み込むような言葉達は本書に出逢った全ての人へのエールだ。「繊細さん」にも、「非繊細さん」にも是非読んで欲しい一冊である。